

2022年3月期 決算説明資料

2022年5月12日

デンヨー株式会社



写真：デンヨーヨーロッパ

I . 2022年3月期決算の概要

II . 2023年3月期通期の見通し

I . 2022年3月期決算の概要

2022年3月期実績ハイライト（連結）

ポイント

連結売上高は前期を上回るも、利益は下回る。

（単位：百万円）

	2021年3月期		2022年3月期		前期比 増減額	前期比 増減率
連結売上高	55,006	100%	55,168	100%	162	0.3%
営業利益	5,332	9.7%	3,653	6.6%	△ 1,679	△ 31.5%
経常利益	5,645	10.3%	4,029	7.3%	△ 1,616	△ 28.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,860	7.0%	2,753	5.0%	△ 1,107	△ 28.7%
設備投資	1,918		839		△ 1,079	△ 56.3%
減価償却費	1,167		1,361		194	16.6%
1株当り当期純利益	185.1円		132.0円		△ 53.1円	△ 28.6%
R O E	6.7%		4.6%			
1株当り年間配当金	47.0円		47.0円			

製品別売上高の動向（連結）

概況

1. 発電機は 265百万円(0.6%)の減少。
2. 溶接機は 443百万円(10.1%)の増加。
3. コンプレッサは 27百万円(3.7%)の減少。

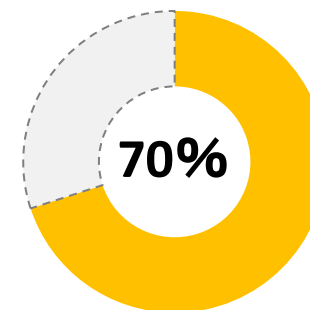
(単位:百万円)

		2021年3月期		2022年3月期		前期比 増減額	前期比 増減率
連結売上高		55,006	100%	55,168	100%	161	0.3%
製品別	発電機	44,020	80.0%	43,754	79.3%	△ 265	△ 0.6%
	溶接機	4,386	8.0%	4,829	8.8%	443	10.1%
	コンプレッサ	755	1.4%	727	1.3%	△ 27	△ 3.7%
	その他	5,845	10.6%	5,856	10.6%	11	0.2%

エンジン発電機（連結）

	2021年3月期	2022年3月期	前期比 増減率
発電機	44,020 ^{百万円}	43,754 ^{百万円}	△ 0.6%

- 国内は、停電対策用の小型発電機などが減少。
- 海外は、アメリカ向けの輸出やアジア市場向けが増加。



可搬形エンジン発電機の国内シェア

※当社調べによる（5年平均）



静音発電機
マーリエ



運転データ記録機能付
発電機

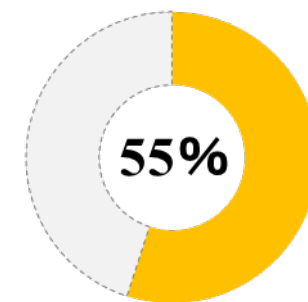
1kVAから1100kVA までのエンジン発電機を製造

- 可搬形発電機
建設現場、土木工事、災害復旧・復興などの動力源
- 非常用発電機（定置形）
防災設備やオフィスなどのバックアップ電源
- 電源車など

エンジン溶接機（連結）

	2021年3月期	2022年3月期	前期比 増減率
溶接機	4,386 ^{百万円}	4,829 ^{百万円}	10.1%

- 国内は小型溶接機の出荷が減少。
- 海外はアメリカ及びアジア向けが増加。



エンジン溶接機の国内シェア
※当社調べによる（5年平均）



炭酸ガス溶接機

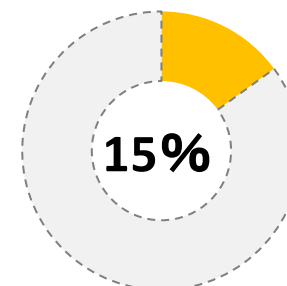
屋外作業の溶接機として当社が日本で初めて開発
軽量鉄骨溶接用の135Aから重量鉄骨溶接用の500Aエンジン溶接機、
およびTIG溶接機、CO2溶接機など

- ビルやマンション、橋梁などの鉄骨構造物の溶接
- 石油備蓄タンク、パイプラインなどの重要構造物の溶接

エンジンコンプレッサ（連結）

	2021年3月期	2022年3月期	前期比 増減率
コンプレッサ	755 ^{百万円}	727 ^{百万円}	△ 3.7%

- 国内向けは増加するも、アメリカ向けは減少。



エンジンコンプレッサの国内シェア

※当社調べによる（5年平均）



エンジンコンプレッサ



モータコンプレッサ

吐出空気量1.7^{m³/min}から45.3^{m³/min}まで製造

- 道路工事のはつり作業、地盤改良工事
- 山岳道路の土砂崩れ防止のモルタル吹き付け工事
- スキー場の人工降雪機用など

その 他（連結）

	2021年3月期	2022年3月期	前期比 増減率
その 他	5,845 ^{百万円}	5,856 ^{百万円}	0.2%

- 製品に付随する部品売上等が増加。
- 高所作業車の出荷が減少。

その他の売上

- 高所作業車
- 負荷試験装置
- 部品売上
- 中古機や仕入商品売上
- 修理売上など



高所作業車

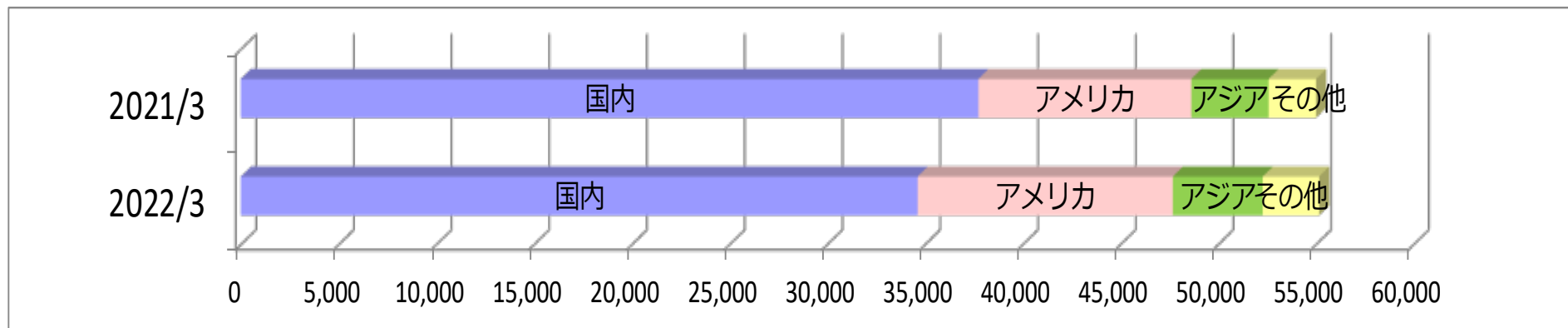


負荷試験装置

地域別売上高の動向（連結）

（単位：百万円）

		2021年3月期		2022年3月期		前期比 増減額	前期比 増減率
連結売上高		55,006	100%	55,168	100%	161	0.3%
国内売上高		37,737	68.6%	34,632	62.8%	△ 3,105	△ 8.2%
海外売上高		17,269	31.4%	20,536	37.2%	3,266	18.9%
地域別	アメリカ	10,897	19.8%	13,052	23.7%	2,155	19.8%
	アジア	3,948	7.2%	4,596	8.3%	647	16.4%
	その他	2,423	4.4%	2,886	5.2%	463	19.1%



営業利益増減の要因分析

営業利益減

主に売上原価率の上昇により減少。

(単位:百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	前期比増減
営業利益	5,332	3,653	△ 1,679
営業利益率	9.7%	6.6%	△ 3.1 ポイント

	2021年3月期	2022年3月期	前期比増減
売上総利益率	24.2%	21.2%	△ 3.0 ポイント
売上高販管費比率	14.5%	14.6%	0.1 ポイント
売上高営業利益率	9.7%	6.6%	△ 3.1 ポイント

- 売上総利益率は、原材料価格の高騰などにより低下。
- 売上高販管費比率は、物流コストが増加するも固定費の減少により前期並み。

連結貸借対照表

概要

1. 流動資産 2,428百万円の増加は、主に棚卸資産などの増加による。
2. 流動負債 1,164百万円の減少は、主に短期借入金などの減少による。

(単位:百万円)

	2021年3月 期末	2022年3月 期末	前期末比 増減額
流 動 資 産	54,443	56,872	2,428
固 定 資 産	24,613	23,902	△ 711
資 産 合 計	79,057	80,774	1,717
流 動 負 債	15,434	14,269	△ 1,164
固 定 負 債	2,058	2,744	685
負 債 合 計	17,493	17,013	△ 480
純 資 産 合 計	61,564	63,760	2,196
負 債 純 資 産 合 計	79,057	80,774	1,717

連結キャッシュ・フローの推移

概要

1. 営業活動によるキャッシュ・フロー2,695百万円は、主に税金等調整前当期純利益などの計上による。
2. 現金及び現金同等物の残高は、445百万円増加。

(単位:百万円)

	2021年3月期	2022年3月期
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	4,941	2,695
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,748	△ 819
I + II フリー・キャッシュ・フロー	3,193	1,876
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,086	△ 1,643
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 246	212
V 現金及び現金同等物の増減額	1,859	445
VI 現金及び現金同等物の期末残高	22,913	23,358

Ⅱ. 2023年3月期通期の見通し

2023年3月期予想～連結損益の見通し

ポイント

1. 売上高は、575億円と予想。
2. 為替レートは110円/ドルを想定。

(単位:百万円)

	2022年3月期		2023年3月期(予)		前期比 増減額	前期比 増減率
連結売上高	55,168	100%	57,500	100%	2,332	4.2%
営業利益	3,653	6.6%	3,900	6.8%	247	6.7%
経常利益	4,029	7.3%	4,200	7.3%	171	4.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,753	5.0%	2,800	4.9%	47	1.7%
設備投資	839		3,700		2,861	341.0%
減価償却費	1,361		1,300		△61	△4.5%
1株当り当期純利益	132.0円		135.1円		3.1円	
R O E	4.6%		*4.6%			
1株当り配当金(円)	47.0円		48.0円			

* 自己資本は前期末の金額で計算

製品別売上高の見通し（連結）

概況

- ・国内向けは、建設需要や非常用発電機の需要が堅調のなか、イベント関連の回復などを見込む。
- ・海外向けは、アメリカ向け及びアジア向けの回復を見込む。

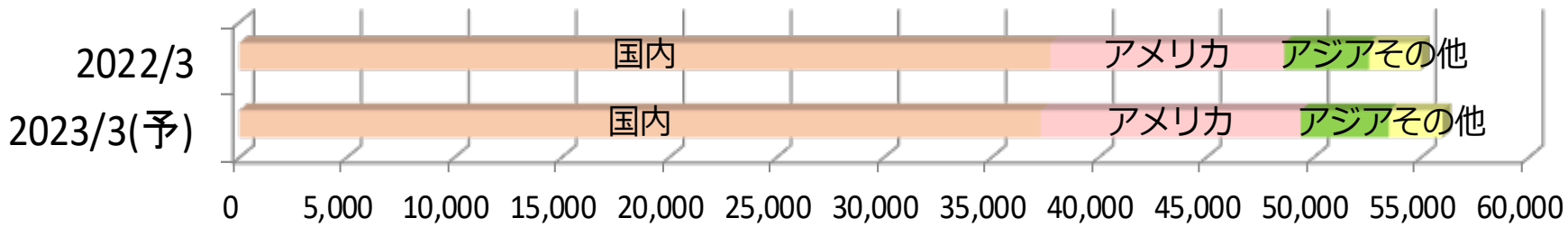
（単位：百万円）

		2022年3月期		2023年3月期(予)		前期比 増減額	前期比 増減率
連結売上高		55,168	100%	57,500	100%	2,332	4.2%
製品別	発電機	43,754	79.3%	45,800	79.7%	2,046	4.7%
	溶接機	4,829	8.8%	5,000	8.7%	171	3.5%
	コンプレッサ	727	1.3%	800	1.4%	73	10.0%
	その他	5,856	10.6%	5,900	10.3%	44	0.8%

地域別売上高の見通し（連結）

（単位：百万円）

		2022年3月期		2023年3月期(予)		前期比 増減額	前期比 増減率
連結売上高		55,168	100%	57,500	100%	2,332	4.2%
国内売上高		34,632	62.8%	36,000	62.6%	1,368	4.0%
海外売上高		20,536	37.2%	21,500	37.4%	964	4.7%
地域別	アメリカ	13,052	23.7%	14,500	25.2%	1,448	11.1%
	アジア	4,596	8.3%	5,000	8.7%	404	8.8%
	その他	2,886	5.2%	2,000	3.5%	△ 886	△30.7%



営業利益予想の内容

営業利益増

売上高の増加と営業利益率の改善により、増益を見込む。

(単位:百万円)

	2022年3月期	2023年3月期(予)	前期比
営業利益	3,653	3,900	247
営業利益率	6.6%	6.8%	0.2 ポイント

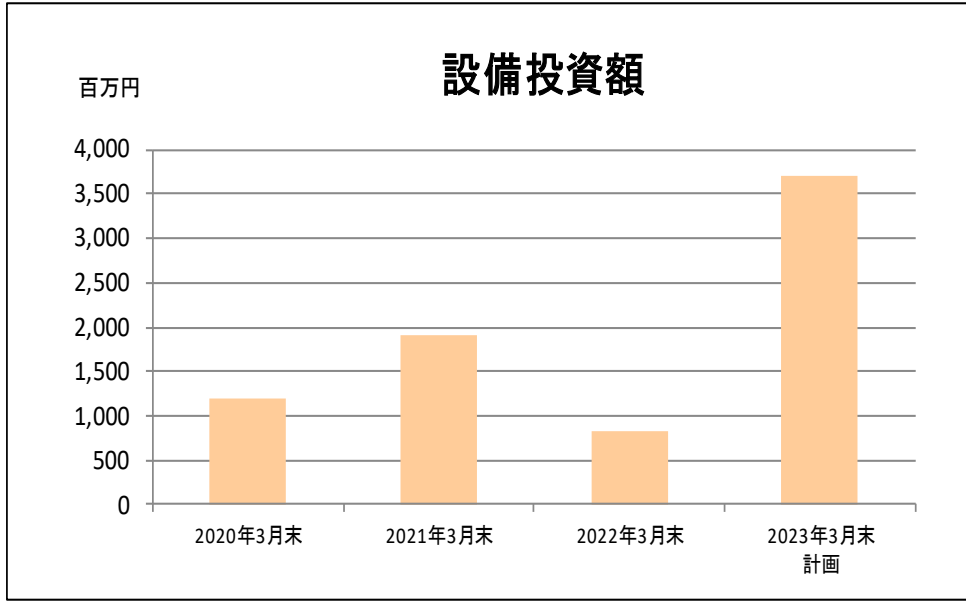
	2022年3月期	2023年3月期(予)	前期比増減
売上総利益率	21.2%	21.7%	0.5 ポイント
売上高販管費比率	14.6%	14.9%	0.3 ポイント
売上高営業利益率	6.6%	6.8%	0.2 ポイント

- 売上総利益率は、原材料価格の高騰に対し、価格転嫁や原価低減活動による改善を見込む。
- 売上高販管費比率は、輸送費や営業活動の回復に伴う経費増による上昇を見込む。

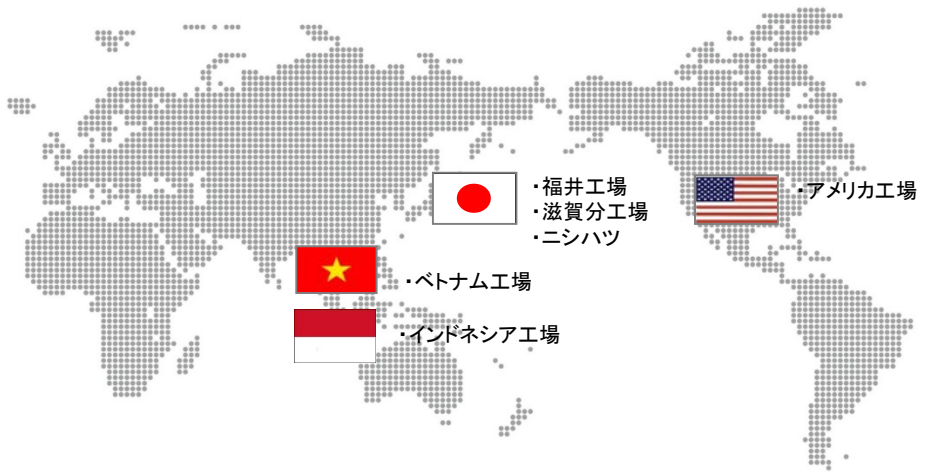
設備投資額の推移

(単位:百万円)

	2020年3月末	2021年3月末	2022年3月末	2023年3月末 計画
設備費	1,201	1,918	839	3,700
主な用途	<ul style="list-style-type: none"> ・福井機械等 810 ・ニシハツ 20 ・アメリカ工場 290 ・ベトナム工場 10 ・その他 70 	<ul style="list-style-type: none"> ・福井機械等 1450 ・ニシハツ 110 ・アメリカ工場 30 ・ベトナム工場 20 ・その他 300 	<ul style="list-style-type: none"> ・福井機械等 290 ・ニシハツ 50 ・アメリカ工場 20 ・ベトナム工場 20 ・その他 460 	<ul style="list-style-type: none"> ・福井機械等 540 ・ニシハツ 1400 ・アメリカ工場 160 ・ベトナム工場 100 ・その他 1500



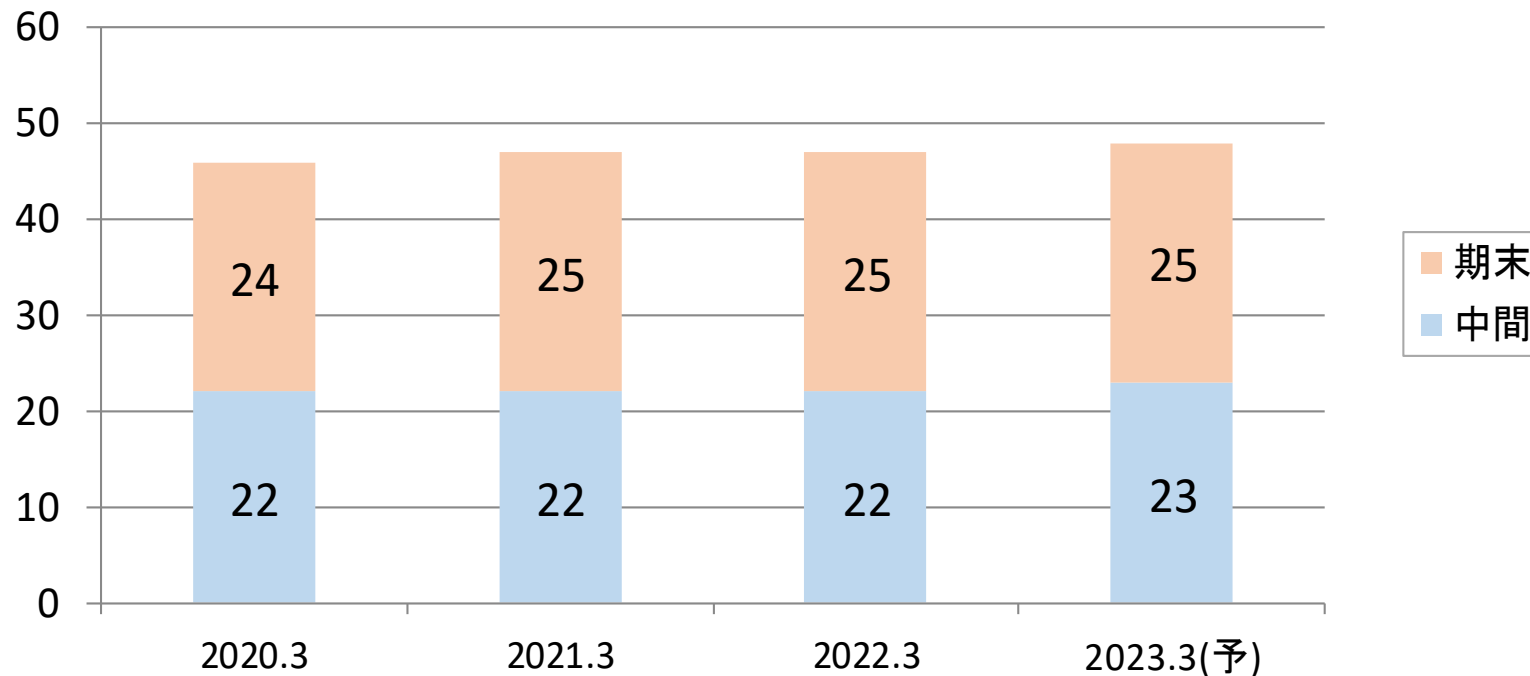
生産拠点一覧



利益配分の方針

利益配分: 収益力の向上と財務体質の強化に努めながら、株主の皆様に対する利益の還元をより充実していくことが重要と認識し、業績や配当性向などを総合的に勘案した成果配分を実施

(配当金の推移 21年3月期 47円 ⇒ 22年3月期 47円 ⇒ 23年3月期 48円予想)



今後の事業戦略（第二次中期経営計画の概要）

Denyo 2023 ～Powering up for the future～

基本方針

建設関連分野における高品質パワーソースのトップランナーとしての地位を堅持しつつ、建設関連外・海外向けの比率を高め、環境変化に強い収益構造を実現する。

2023年度・経営目標	
連結売上高	610億円+a
経常利益	62億円
ROE	6.5%以上

SDGs（ESG）取組方針	
E：地球環境の保全に貢献	・環境性能の高い製品の開発 ・廃棄物削減、リサイクル、温室効果ガスの排出削減 他
S：持続可能な社会の実現	・インフラ整備や防災、減災など豊かな社会づくりへの貢献 ・安全安心な製品の提供 他
G：長期的な企業価値の向上	・法令、社会規範、倫理、社内規程などのルール遵守 ・公正な事業活動の推進 他

国内市場戦略

【建設関連事業】

エンジン発電機、溶接機といったトップブランド製品を中心に国内シェアの維持・向上を目指す

- ①顧客ニーズを捉えた新製品の投入によりシェアアップ、市場拡大を図る
- ②営業活動の効率化、高度化を目指す

【建設関連以外の事業】

非常用発電機のさらなる拡販のための土台構築に取り組む

- ①専門知識向上のための教育体制の充実
- ②グループ間の連携強化
- ③製品メンテナンス体制の充実

海外市場戦略

【海外事業】

ターゲットとする高品質市場におけるプレゼンス向上を目指す

- ①市場調査や機能面等の強化による製品ラインナップの拡充を図り、新市場開拓を目指す
- ②各国販売店網の再整備と教育体制の充実により、販売力強化を図る
- ③マーケティング機能を強化し、顧客接点を増やす
- ④定置形発電機のシリーズ化による、市場の継続開拓

経営基盤の強化

【開発】

高品質パワーソースのパイオニアとして、市場をリードする製品開発を行う

- ①市場ニーズを的確に捉え、開発スピードの向上を図る
- ②新機軸製品の開発への対応強化

【生産】

グローバル競争力を備える生産体制を構築

- ①生産現場力の強化やIT化推進により、柔軟かつ高効率の生産体制を確立する
- ②国内生産拠点の整備・高度化を図る

【組織】

多様な人材が活躍できる体制づくり

- ①教育体制の一層の拡充や人事制度の見直しにより、やりがいと働きやすさの両立を目指す
- ②各工程におけるシステム化の推進

カーボンニュートラルに向けた取り組み

デンヨーは、地球環境問題を経営の重要な課題の一つとして位置付け、カーボンニュートラルへ向けた取り組みを積極的に推進してまいります。地球温暖化防止に向けたCO2排出量の削減や大気汚染防止のためのも一つとして、燃料電池をはじめとする水素社会への取り組みが有効であると考えています。



燃料電池式可搬形発電装置

- 環境省「CO2排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業」採択
- 燃料電池専用パワーコンディショナーを新たに開発・搭載
- 2021年6月から実証運転開始

想定用途：土木・建設工事、災害発生時の生活電源、テレビ中継や各種イベント 等



水素混焼発電機

- 軽油に水素の混焼率50%で運転
- 軽油のみを燃料とする場合と比較してCO2の発生を50%削減
- 2023年の250kW水素混焼発電機量産化を目指す

想定用途：副生水素を活用した自家消費、停電対策用電源 等

見通しに関する注意事項

この資料には、2022年5月12日現在の将来に関する前提、見通し、計画に基づく予想が含まれています。
今後の経済変動、競合状況などにより、実際の業績が予測と大幅に異なる可能性があります。

あくまでも、情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。
投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。

当社のIRに関するお問い合わせ先

経営企画室 藤本・後藤
電話：03-6861-1178
FAX：03-6861-1185

參考資料

エンジン発電機、エンジン溶接機など野外パワースーツのトップメーカー

沿革： 昭和23年7月2日 「日本電機溶接機材株式会社」として設立
昭和34年 我が国初の高速エンジン溶接機を開発、発売
昭和36年 エンジン発電機の生産、販売開始
昭和41年 防音型開発
デンヨー株式会社に社名変更
昭和58年 東証二部上場
平成12年 東証一部上場

会社規模など（2022/3期・連結ベース）

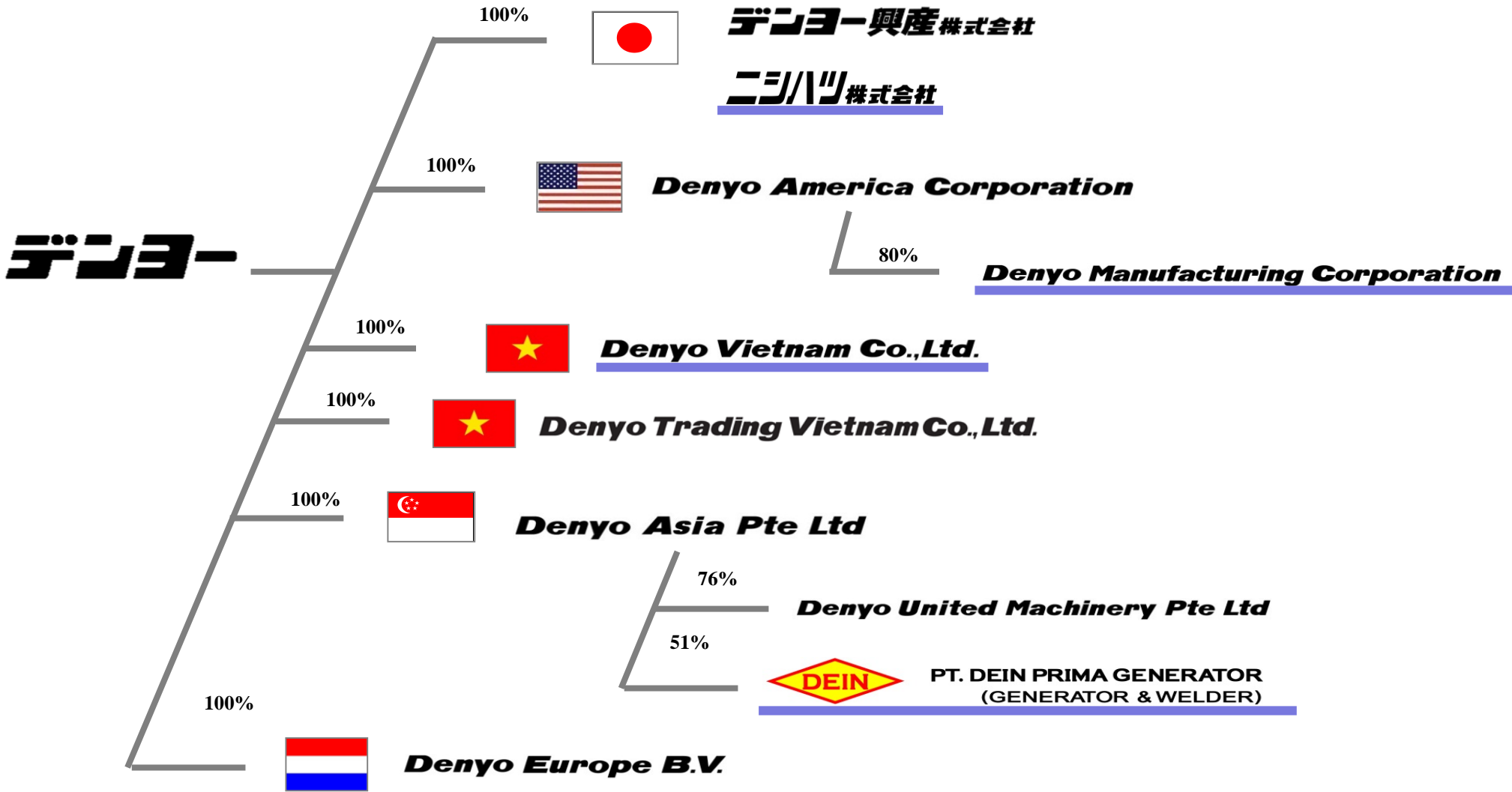
（単位：百万円）

売上高	55,168
うち海外売上高	20,536
経常利益	4,029
親会社株主に帰属する当期純利益	2,753
総資産	80,774
純資産	63,760
時価総額（3/31時点）	37,398
従業員数	1,359人



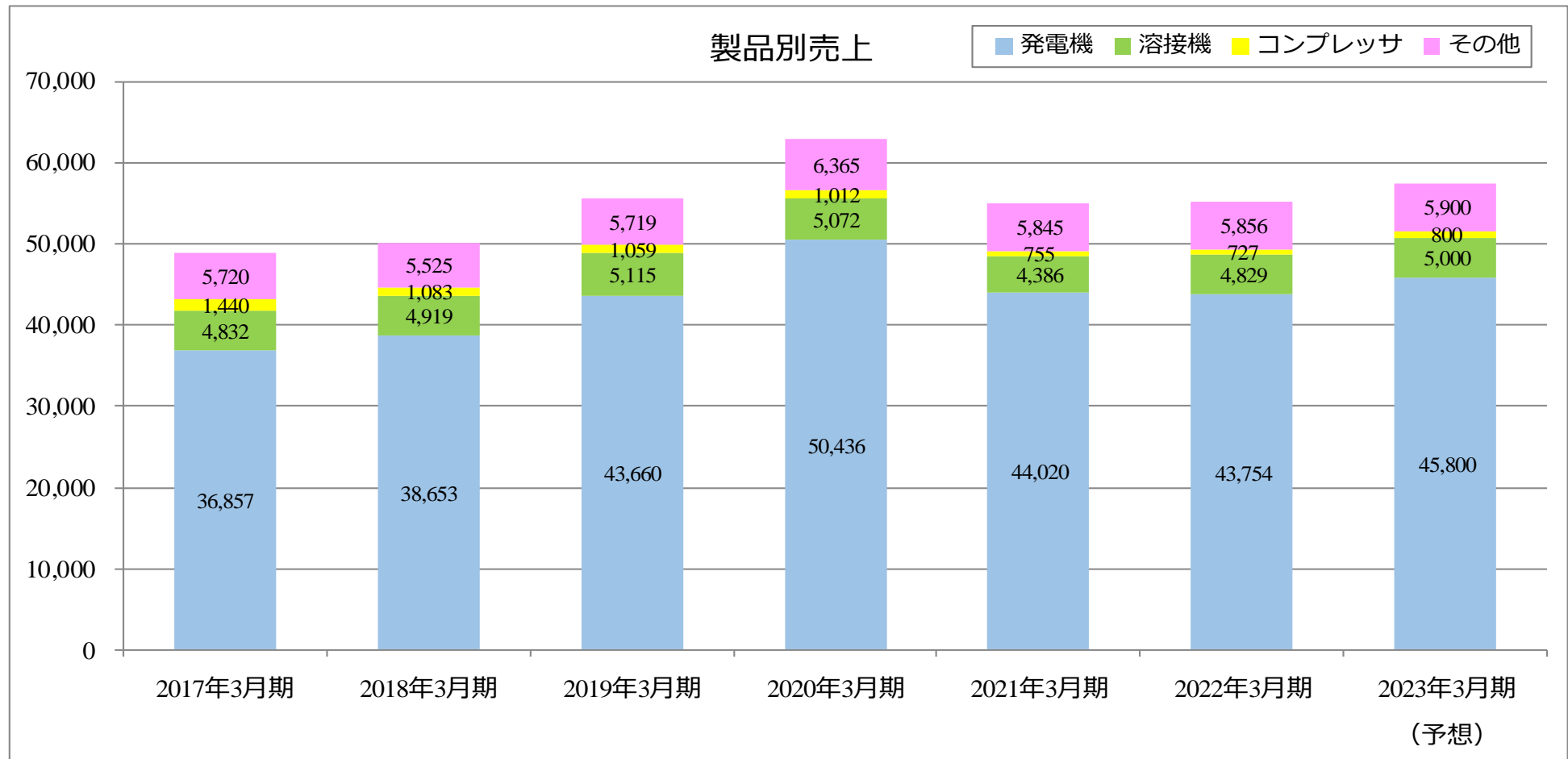
本社（日本橋堀留町）

グループ会社

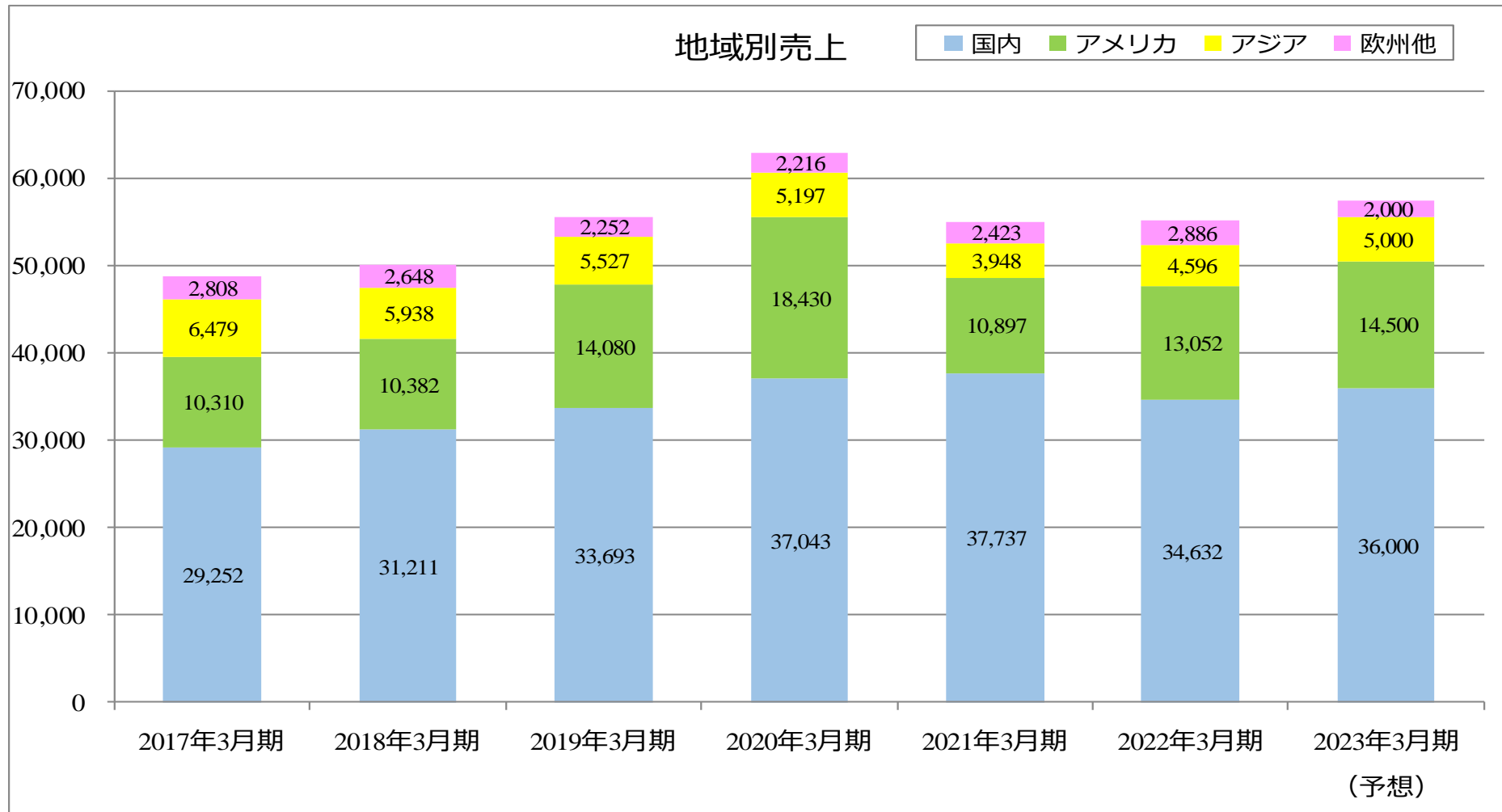


* 1.この他に持分法適用の関連会社「新日本建販(株)」(出資比率15.7%)があります。
2.下線の引いてある会社は製造会社となります。

製品別推移と予想



地域別推移と予想



過去30年間の業績の推移

